



昭和 34. 10. 15 第 17 号

目 次

関係法令他	法律、政会、府会、省会、訓令、規則、告示、通達……………	1
	退職手当支給割合について……………	3
学内規程	学則の一部改正……………	2
	工学部規定の一部改正……………	〃
人事異動	……………	4
総会情報	義宮さまの御来学……………	14
	経営短大の入学試験……………	〃
	経営短大の入学式……………	〃
	文理、薬学部長の改選……………	〃
	図書館長及学生部長の選考……………	15
	本年度科学研究費交付金等の採択決定	〃
	本年度内地研究員……………	〃
	文部省会計実施監査……………	〃
	文部省委嘱専門講座開設……………	16
	科学教育研究室の開設……………	〃
	秋季認定講習……………	〃
	大学後援会定期総会……………	〃
	原富元教授の名誉教授の称号授与……………	17
	下斗米教授等 4 教官の学位取得……………	〃
	吉田助教授沖繩出張……………	〃
	竹内教授の渡独……………	〃
	福井教授の転出……………	〃
	森宮緒係長の逝去……………	18
	萩野啓太郎氏の逝去……………	〃
学生諸催し	第 5 回大学祭……………	〃
	夏季学生キャンプ他……………	19
レクリエーション	……………	20
	第 9 回文部省共済組合体育大会……………	〃
	非現業国家公務員共済組合野球大会……………	〃
	富山地区公務員レクリエーション共同事業……………	〃
学部情報	……………	21
文理学部	日本陸水学会……………	〃
	日本数学会シンポジウム……………	〃
教育学部	教員養成学部教育研究集会……………	22
	卒業修了者就職状況……………	〃
経済学部	十大学経済学部長ならび	

	に事務長会議……………	23
日誌	各学部および本部庶務日誌……………	〃
改姓、住居	……………	26
特別寄稿	……………	〃
	義宮殿下に随伴して 文理 植木忠夫……………	27
	ヘルン関係文献の充実 〃 平岡伴一……………	26
	沖繩の印象 教育 吉田 博……………	27

関係法令

法 律

第119号	一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律	34.4.13 官報
第147号	国税徴収法	4.20 〃
第148号	国税徴収法の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律	4.20 〃
第150号	物品税法の一部を改正する法律	4.21 〃
第163号	国家公務員共済組合法等の一部を改正する法律	5.15 〃
第164号	国家公務員等退職手当暫定措置法の一部を改正する法律	5.15 〃

政 令

第122号	予算決算及び会計令の一部を改正する政令	34.4.13官報
第123号	文部省組織令の一部を改正する政令	4.13 〃
第130号	恩給給与規則の一部を改正する政令	4.14 〃
第131号	恩給法別表第 1 号表の 2 及び別表第 1 号表の 3 に規定する疾病を定める政令	4.16 〃
第144号	物品税法施行規則の一部を改正する政令	4.21 〃
第207号	国家公務員共済組合法施行令の一部を改正する政令	6. 1 〃
第208号	国家公務員等退職手当暫定措置法施行令の一部を改正する政令	6. 1 〃
第229号	文部省組織令の一部を改正する政令	6.30 〃
第254号	国立学校設置法施行令の一部を改正する政令	7.11 〃
第258号	予算決算及び会計令の一部を改正する政令	7.20 〃
第287号	国家公務員共済組合法施行令の一部を改正する政令	9. 5 〃

府 令

第22号	恩給給与細則の一部を改正する総理府令	4.16 官報
第23号	恩給法の一部を改正する法律の規定による増加	

恩給の加給改定請求手続に関する総理府令
4.16 〃

省 令

- 文部第 8 号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 34.4.14 〃
- 大蔵第31号 物品税法施行細則の一部を改正する省令 4.30 〃
- 大蔵第37号 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令 34.5.14 官報
- 文部第14号 学校教育需給調査規則の一部を改正する省令 5. 1 官報
- 〃 第16号 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令 5.16 〃
- 〃 第18号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 7. 1 〃
- 〃 第19号 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令 7.11 〃
- 〃 第20号 教職員免許法施行規則の一部を改正する省令 7.25 〃

訓 令

内閣第 1 号 「送りがなのつけ方」の実施について
7.11 〃

規 則

- 人事院9—22 暫定手当の一部を改正する規則 4.13 〃
- 人事院9—26 職務の等級の最高の号俸をこえる俸給月額を受ける俸給月額 4.13 〃
- 会計検査院第 3 号 計算証明規則の一部を改正する規則 4.27 〃
- 人事院9—17 俸給の特別調整額の一部を改正する規則 6. 8 〃

告 示

- 大蔵第86号 物品税法施行規則第26条第14号の規定による物品の指定に関する一部を改正する件 4.30 〃
- 文部第54号 学校教員需給調査を行う年度は昭和34年度とする件 5. 1 〃
- 大蔵第105号 物品税法施行規則第28条の6第1項第1号及び第2号の規定により物品を指定する表示を定める告示の一部を改める件 5.28 〃
- 文部第66号 文部省共済組合運営規則 7. 9 〃
- 内閣第 1 号 現代国語を書き表わすため各行政機関においてすべき送りがなのつけ方の標準を定めた件 7.11 〃

通 達

- 文部省発注工事請負等契約規則の一部を改正する訓令について(7.20文会総660号)

- 文部省所管旅費規則の一部を改正する訓令 (7.20文会総665号)
- 文部省債権管理事務取扱規程の一部を改正する訓令について(7.20文会総657号)
- 文部省所管物品管理事務取扱規程の一部を改正する訓令について(7.20文会総656号)

学 内 規 程

学則の一部改正 (8月19日評議会)

第50条中

教育学部

- 第一中等教育科 } (4年課程) 580名を 625名に
- 第一初等教育科 }
- 第二中等教育科 } (2年課程) 70名を 30名に
- 第二初等教育科 }

それぞれ改める。

付則第 1 条に次の付則を加える

付 則

この学則は昭和34年 8 月19日から実施し
昭和34年 4 月 1 日から適用する。

工学部規程の一部改正

別 表

電気工学科中

工業力学の次に「蒸気罐 2」単位を加え蒸気原動機「6」単位を「4」単位に改める。

工業化学科中

合成樹脂「2」単位を「4」単位に改め「有機工業化学特論 1」単位を削る。

付則に次の付則を加える。

付 則

この規程は昭和34年 8 月19日から実施し、昭和34年 4 月1日から適用する。

退職手当支給割合について

国家公務員共済組合法の改正に伴ない、国家公務員等退職手当暫定措置法が改められ国家公務員等退職手当法が制定されたがその新旧支給割合は別表のとおりである。
 なお、本法は雇傭人については昭和34年1月1日から既に適用され任官者については昭和34年10月1日から適用された。

退職手当支給事由及び支給割合一覧表

勤続年数	改 正 前				改 正 後												
	自 己 都 合	任 期 終 了 の 一 部	公 務 上 外 傷 病	公 務 上 外 死 亡	整 理	25 年 以 上 勤 奨	自 己 都 合	公 務 上 外 傷 病	公 務 上 外 死 亡	任 期 終 了 の 一 部	20 年 以 上 勤 奨	25 年 以 上 勤 奨	都 合 等	整 理	公 務 上 外 傷 病	公 務 上 外 死 亡	25 年 以 上 勤 奨
1	0.3月	(1.0a)	(4.0+1.0a)	(3.6a)	1.2月	0.6月	1.0月	1.25月	(3.6a)	0.6月	1.0月	1.25月	1.5月	0.6月	1.0月	1.25月	1.5月
2	0.6	0.9月	4.9月	1.2月	0.6月	1.2	2.0	2.5	(4.5a)	1.2	2.0	2.5	3.0	1.2	2.0	2.5	3.0
3	0.9	1.8	5.8	2.5	0.9	1.8	3.0	3.75	(5.4a)	1.8	3.0	3.75	4.5	1.8	3.0	3.75	4.5
4	1.2	2.7	6.7	3.6	1.2	2.4	4.0	5.0	(5.4a)	2.4	4.0	5.0	6.0	2.4	4.0	5.0	6.0
5	1.5	4.5	8.5	4.8	1.5	3.0	5.0	6.25	6.0	3.0	5.0	6.25	7.5	3.0	5.0	6.25	7.5
6	2.7	5.4	9.4	6.0	2.7	4.5	6.0	7.5	9.0	4.5	6.0	7.5	9.0	4.5	6.0	7.5	9.0
7	3.15	6.3	10.3	6.8	3.15	5.25	7.0	8.75	10.5	5.25	7.0	8.75	10.5	5.25	7.0	8.75	10.5
8	3.6	7.2	11.2	7.6	3.6	6.0	8.0	10.0	12.0	6.0	8.0	10.0	12.0	6.0	8.0	10.0	12.0
9	4.05	8.1	12.1	8.4	4.05	6.75	9.0	11.25	13.5	6.75	9.0	11.25	13.5	6.75	9.0	11.25	13.5
10	4.5	9.0	13.0	9.0	4.5	7.5	10.0	12.5	15.0	7.5	10.0	12.5	15.0	7.5	10.0	12.5	15.0
11	6.65	10.05	14.05	10.0	6.65	11.1	13.875	16.65	19.95	11.1	13.875	16.65	19.95	11.1	13.875	16.65	19.95
12	7.3	11.1	15.1	10.8	7.3	12.2	15.25	18.3	21.6	12.2	15.25	18.3	21.6	12.2	15.25	18.3	21.6
13	7.95	12.15	16.15	11.6	7.95	13.3	16.625	19.95	24.3	13.3	16.625	19.95	24.3	13.3	16.625	19.95	24.3
14	8.6	13.2	17.2	12.4	8.6	14.4	18.0	21.6	26.4	14.4	18.0	21.6	26.4	14.4	18.0	21.6	26.4
15	9.25	14.25	18.25	13.2	9.25	15.5	19.375	23.25	28.8	15.5	19.375	23.25	28.8	15.5	19.375	23.25	28.8
16	9.9	15.3	19.3	14.0	9.9	16.6	20.75	24.9	30.0	16.6	20.75	24.9	30.0	16.6	20.75	24.9	30.0
17	10.55	16.35	20.35	14.8	10.55	17.7	22.125	26.55	32.4	17.7	22.125	26.55	32.4	17.7	22.125	26.55	32.4
18	11.2	17.4	21.4	15.6	11.2	18.8	23.5	28.2	34.8	18.8	23.5	28.2	34.8	18.8	23.5	28.2	34.8
19	11.85	18.45	22.45	16.4	11.85	19.9	24.875	29.85	36.2	19.9	24.875	29.85	36.2	19.9	24.875	29.85	36.2
20	12.5	19.5	23.5	17.2	12.5	21.0	26.25	31.5	38.6	21.0	26.25	31.5	38.6	21.0	26.25	31.5	38.6
21	13.2	20.7	24.7	18.0	13.2	22.2	27.75	33.3	40.0	22.2	27.75	33.3	40.0	22.2	27.75	33.3	40.0
22	13.9	21.9	25.9	18.8	13.9	23.4	29.25	35.1	42.4	23.4	29.25	35.1	42.4	23.4	29.25	35.1	42.4
23	14.6	23.1	27.1	19.6	14.6	24.6	30.75	36.9	44.8	24.6	30.75	36.9	44.8	24.6	30.75	36.9	44.8
24	15.3	24.3	28.3	20.4	15.3	25.8	32.25	38.7	47.2	25.8	32.25	38.7	47.2	25.8	32.25	38.7	47.2
25	16.0	25.5	29.5	21.2	16.0		33.75	40.5	49.6		33.75	40.5	49.6		33.75	40.5	49.6
26	16.7	26.7	30.7	22.0	16.7		35.25	42.3	52.0		35.25	42.3	52.0		35.25	42.3	52.0
27	17.4	27.9	31.9	22.8	17.4		36.75	44.1	54.4		36.75	44.1	54.4		36.75	44.1	54.4
28	18.1	29.1	33.1	23.6	18.1		38.25	45.9	56.8		38.25	45.9	56.8		38.25	45.9	56.8
29	18.8	30.3	34.3	24.4	18.8		39.75	47.7	59.2		39.75	47.7	59.2		39.75	47.7	59.2
30	19.5	31.5	35.5	25.2	19.5		41.25	49.5	61.6		41.25	49.5	61.6		41.25	49.5	61.6
31	20.2	32.7	36.7	26.0	20.2		42.625	51.15	64.0		42.625	51.15	64.0		42.625	51.15	64.0
32	20.9	33.9	37.9	26.8	20.9		44.00	52.8	66.4		44.00	52.8	66.4		44.00	52.8	66.4
33	21.6	35.1	39.1	27.6	21.6		45.375	54.45	68.8		45.375	54.45	68.8		45.375	54.45	68.8
34	22.3	36.3	40.3	28.4	22.3		46.75	56.1	71.2		46.75	56.1	71.2		46.75	56.1	71.2
35	23.0	37.5	41.5	29.2	23.0		48.125	57.75	73.6		48.125	57.75	73.6		48.125	57.75	73.6

富山大学 一七号

(注) 括弧内は最低保障である。

a は基本給月額を示し、基本給月額とは俸給、扶養手当及び暫定手当(又はこれに相当する手当)の合計月額をいう
 太字は、25年以上勤続して自己都合等により退職した者に対する退職手当の支給割合を示す。

人事異動

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	小笠原和夫	文部教官(富山大学教授文理学部)に採用する	4. 1
	高 畠 丈 夫	教務員(文理学部)に採用する	4. 16
	酒 井 突	用務員(会計課作業員)に採用する	5. 11
	奥 村 成 盛	用務員(文理学部作業員)に採用する	〃
	高 井 清	用務員(教育学部作業員)に採用する	〃
	瀬 川 安 一 郎	文部教官(富山大学講師工学部)に採用する	5. 16
	土 池 春 樹	臨時筆生(経済学部)に採用する	5. 25
	山 本 道 弘	〃	〃
	氷 見 嘉 康	事務員(教育学部)に採用する	6. 25
	野 上 泰 男	事務補佐員(経済学部)に採用する	7. 25
	神 戸 寿 々 代	炊婦(非常勤)(教育学部付属小学校)に採用する 任期は1日とする 任命権者が別段の措置をしない限り 任用を日々更新する	6. 1
	家 納 ト ミ 子	〃	〃
	西 村 嘉 子	作業員(非常勤)(経営短期大学部)に採用する 任期は1日とする 任命権者が別段の措置をしない限り 任用を日々更新す	6. 25
	野 崎 稔 雄	技術員(施設課)に採用する	9. 28
	岩 淵 富 治	文部教官(富山大学助教授経済学部)に採用する	10. 1
技能員(教育学部炊婦)	小 善 ツ ヤ	技能員(教育学部炊婦)に配置換する(定員内)	5. 16
臨時筆生(教育学部)	島 田 政 信	事務員(教育学部)に配置換する	〃
事務員(教育学部)	浦 田 隆 志	教育学部付属小学校に配置換する	6. 25
事務員(教育学部付属小学校)	草 島 幸 雄	補導課に配置換する	〃
臨時筆生(経済学部)	酒 井 睦 夫	事務補佐員(経済学部)に配置換する	7. 1
〃(会計課)	平 林 富 子	〃(会計課) 〃	〃
〃(文理学部)	長 沢 義 男	〃(文理学部) 〃	〃
〃	増 田 夏 樹	〃	〃
〃	涌 井 芳 朗	〃	〃
〃(教育学部)	野 尻 津 喜 夫	〃(教育学部) 〃	〃
〃(教育学部付属中学校)	清 水 光 忠	〃(教育学部付属中学校) 〃	〃
〃(教育学部付属小学校)	板 谷 忠 良	〃(教育学部付属小学校) 〃	〃
〃(経済学部)	河 崎 輝 子	〃(経済学部) 〃	〃
〃	山 本 道 弘	〃	〃
〃	土 池 春 樹	〃	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
〃 (薬学部)	野 崎 和 子	〃 (薬学部) 〃	〃
〃 (付属図書館工学部分館)	松 島 俱 子	〃 (付属図書館工学部分館) 〃	〃
〃 (付属図書館)	石 井 節 子	〃 (付属図書館) 〃	〃
〃 (薬学部)	中 島 益 美	研究補佐員(薬学部) 〃	〃
〃	西 野 敦 子	〃	〃
〃 (工学部)	平 木 道 幸	〃 (工学部) 〃	〃
〃 (庶務課タイピスト)	水 野 美 須 子	技能補佐員(庶務課) 〃	〃
〃 (文理学部)	河 原 健 三	〃 (文理学部) 〃	〃
事務員(工学部)	藤 田 修	東京芸術大学に出向させる	7. 16
事務補佐員(経済学部)	酒 井 睦 夫	事務員(工学部)に配置換する	7. 25
教授(文理学部)	福 井 憲 二	広島大学教授理学部に配置換する	8. 1
助教授(教育学部)	林 勝 次	教授に昇任させる	5. 16
〃	沢 泉 重 夫	〃	〃
文部技官(施設課)	前 島 健 治	施設課営繕係長に昇任させる	9. 14
講師(工学部)	葉 山 益 次 郎	助教授に昇任させる	9. 16
技術員(金沢大学医学部付属病院)	早 瀬 智 都 子	富山大学文理学部看護婦に転任させる	10. 11
富山大学経営短期大学部教授	土 生 滋 穂	富山大学教授経済学部配置換する 富山大学経営短期大学主事の併任を解除する	10. 1
事務員(会計課)	今 井 一 子	休職の期間を昭和34年11月7日まで更新する	5. 8
技術員(教育学部看護婦)	牛 島 ア ヤ	休職の期間を昭和34年12月24日まで更新する	8. 19
用務員(文理学部作業員)	加 藤 藤 次 郎	休職の期間を昭和35年1月3日まで更新する	7. 2
事務員(薬学部)	高 森 恵 巳 子	休職の期間を昭和35年1月15日まで更新する	7. 14
〃 (工学部)	中 島 澄 子	国家公務員法第79条第1号の規定により休職する 休職の期間は昭和35年9月21日までとする	9. 22
〃 (会計課)	今 井 一 子	辞職を承認する	5. 18
用務員(経済学部作業員)	中 崎 由 次 郎	〃	6. 15
〃 (工学部作業員)	浅 井 外 志 光	〃	7. 31
技術員(文理学部看護婦)	種 節 子	〃	9. 10
事務員(庶務課)	島 正	文部事務官に任官させる	9. 16
〃	城 川 久 美 子	〃	〃
〃	平 野 茂 良	〃	〃
事務員(会計課)	島 田 幾 久 栄	〃	〃
〃	池 田 妙 子	〃	〃
〃	蓮 田 初 枝	〃	〃
〃	渡 辺 国 男	〃	〃
〃	高 岡 博	〃	〃
〃	山 岸 長 幸	〃	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
事務員(施設課)	奥 田 真 一	〃	〃
事務員(補導課)	御 福 富 美 子	〃	〃
〃	草 島 幸 雄	〃	〃
事務員(厚生課)	山 本 昭 子	〃	〃
事務員(文理学部)	小 林 太 市	〃	〃
〃	清 水 タ カ 子	〃	〃
〃	氏 洋 子	〃	〃
〃	白 野 明	〃	〃
〃	中 林 邦 夫	〃	〃
事務員(教育学部)	北 林 秀 次 郎	〃	〃
〃	長 沢 幸 次 郎	〃	〃
〃	中 村 恵 二	〃	〃
〃	中 田 ふ じ え	〃	〃
事務員(教育学部附属小学校)	福 田 富 美 枝	〃	〃
〃	浦 田 隆 志	〃	〃
事務員(教育学部)	山 下 寿 和	〃	〃
〃	島 原 君 子	〃	〃
〃	平 岡 幸 一	〃	〃
〃	田 嶋 ス ミ 子	〃	〃
〃	松 村 す ゑ 子	〃	〃
〃	金 岡 ス ミ 子	〃	〃
〃	杉 本 啓 郎	〃	〃
事務員(教育学部附属中学校)	真 野 節 子	〃	〃
事務員(経済学部)	扇 谷 甚 右 門	〃	〃
〃	蔵 北 博	〃	〃
事務員(薬学部)	河 内 美 代	〃	〃
事務員(工学部)	堀 田 吉 太 郎	〃	〃
〃	南 立 作	〃	〃
〃	北 角 正 雄	〃	〃
〃	荒 屋 克 子	〃	〃
〃	田 中 崇 子	〃	〃
〃	高 山 藤 一 郎	〃	〃
〃	泉 三 郎	〃	〃
〃	宮 下 春 男	〃	〃
事務員(附属図書館)	宮 本 唯 雄	〃	〃

現官職	氏名	異動内容	発令月日
〃	関場貞子	〃	〃
〃	城結敏	〃	〃
事務員(附属図書館薬学部分館)	梶原和枝	〃	〃
事務員(附属図書館工学部分館)	山出繁	〃	〃
事務員(附属図書館)	松下甚清	〃	〃
技術員(施設課)	安間基	文部技官に任官させる	9. 16
〃	高田勝春	〃	〃
技術員(薬学部看護婦)	松原薫	〃	〃
教務員(文理学部)	藤井昭二	〃	〃
〃	畠脩二	〃	〃
教務員(務学部)	野沢文治	〃	〃
〃	結城善之	〃	〃
教務員(薬学部)	塩谷俊作	〃	〃
〃	本田陸子	〃	〃
〃	中井昇	〃	〃
教務員(工学部)	柳瀬秋夫	〃	〃
〃	神田睦夫	〃	〃
〃	伏江博	〃	〃
〃	田島仁	〃	〃
助教授(教育学部)	岩田弘	昭和34年度文部省内地研究員を命ずる	5. 1
助手(薬学部)	大浦彦吉	〃	〃
教授(文理学部)	岡本基	富山大学評議員に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	6. 1
〃	植木忠夫	富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年5月31日までとする	〃
教授(教育学部)	佐々亮	〃	〃
〃	蜷川栄作	〃	〃
教授(薬学部)	中沖太七郎	〃	〃
〃	三橋監物	〃	〃
教授(工学部)	野路末吉	〃	〃
〃	南日実	〃	〃
教授(薬学部)	中沖太七郎	薬学部長事務代理を命ずる	〃
教授(工学部)	加藤正	附属図書館工学部分館長に併任する 任期は昭和36年7月12日までとする	7. 13
教授(経済学部)	野崎富作	富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年7月31日までとする	8. 1
〃	内田穰吉	〃	〃
教授(薬学部)	横田嘉右衛門	薬学部長に併任する 任期は昭和36年8月23日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年8月23日までとする	8. 24

現 官 識	氏 名	異 動 内 容	発令月日
教授 (文理学部)	高 瀬 重 雄	文理学部長に併任する 任期は昭和36年8月31日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年8月31日までとする	9. 1
〃	大 島 文 雄	学生部長に併任する 任期は昭和36年9月14日までとする	9. 15
教授 (薬学部)	中 沖 太 七 郎	附属図書館長に併任する 任期は昭和36年9月15日までとする	6. 16
教授 (経済学部)	土 生 滋 穂	富山大学経営短期大学部教授に併任する 任期は昭和35年9月30日までとする 富山大学経営短期大学部主事に併任する 任期は昭和35年9月30日までとする	10. 1
	中 性 哲	講師 (文理学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 13
	楠 顕 秀	〃	〃
	菊 池 靖 雄	〃	〃
	鮎 谷 喜 兵 衛	講師 (教育学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 6
	今 井 尚 信	〃	〃
	太 田 正 行	〃	〃
	西 出 靖 夫	〃	〃
	大 沢 多 美 子	〃	〃
	小 柳 津 三 郎	〃	〃
	福 田 実	〃	〃
	萩 野 啓 之 助	〃	〃
	矢 後 正 之	〃	〃
	斉 藤 現 常	〃	〃
	福 田 博	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
	林 夫 門	〃	〃
	塩 岡 貞 次 郎	講師 (薬学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 13
	宇 津 一 郎	講師 (工学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 16
	田 中 道 夫	講師 (文理学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 1
	進 野 久 五 郎	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
	渡 部 正 雄	〃	5. 5
	三 矢 篤	〃	6. 28
	小 島 公 一 郎	〃	7. 1
	鈴 木 俊	〃	〃
	岡 正 雄	〃	7. 6
	大 島 国 雄	講師 (経済学部) に採用する 任期は昭和34年9月30日までとする	6. 20
	神 野 璋 一 郎	〃	〃
	伽 場 重 男	講師 (工学部) に採用する 任期は昭和34年10月31日までとする	7. 1
	村 井 藤 十 郎	講師 (経済学部) に採用する 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
	目 武 雄	講師 (文理学部) に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	9. 13

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	大田 栄太郎	講師(教育学部)に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 1
	嶋田 重春	〃	〃
	石黒 光祐	〃	〃
教授(文理学部)	下斗米 晃	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 6
〃	近藤 堅二	〃	〃
教務員(文理学部)	藤井 昭二	〃	〃
教育学部附属中学校教諭	布村 清太郎	〃	〃
〃	水井 謹作	〃	〃
〃	篁 ハル	〃	〃
〃	白川 郁子	〃	〃
教授(工学部)	村中 利吉	〃	〃
助教授(工学部)	四谷 平治	〃	〃
〃(薬学部)	松本 弘一	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
講師(工学部)	葉山 益次郎	〃	〃
講師(教育学部)	泉 敏郎	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 13
〃	田中 久雄	〃	〃
〃	金子 基之	〃	〃
〃	有沢 一男	〃	〃
助手(教育学部)	石黒 国雄	〃	〃
助教授(〃)	林 勝次	〃	〃
〃	藤木 興三	〃	〃
教育学部附属中学校教諭	水井 謹作	〃	〃
〃	布村 清太郎	〃	〃
金沢大学講師理学部	都島 文行	〃	〃
助手(経済学部)	海道 勝稔	〃	〃
助教授(教育学部)	林 勝次	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 10
講師(〃)	田中 久雄	〃	〃
〃	金子 基之	〃	〃
〃	有沢 一男	〃	〃
教授(工学部)	加藤 正	〃	〃
〃	南 日 実	講師(薬学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	4. 13
講師(教育学部)	田中 久雄	〃	〃
助教授(〃)	頭川 徹治	〃	〃
非常勤講師(文理学部)	原 富慶太郎	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
神戸大学教授経営学部	久保田 晋二郎	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
運輸技官(富山地方気象台長)	福田善代志	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	4. 14
助教授(教育学部)	藤木二与	講師(工学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 16
〃(文理学部)	永原茂	〃	〃
講師(教育学部)	金子基之	〃	〃
教授(経済学部)	野崎富作	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
助手(教育学部)	石黒国雄	〃 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
金沢大学助教授教育学部	岩井隆盛	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
金沢大学助教授法文学部	鈴木寛	〃 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
金沢大学助教授理学部	江田義計	〃	4. 17
東京工業大学助教授理工学部	阿部統	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	4. 20
非常勤講師(文理学部)	田中道夫	講師(薬学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 1
金沢大学助教授法文学部	三浦元俊	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 10
教授(経済学部)	三国一義	教授(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 16
〃(教育学部)	入沢寿夫	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
〃	玉生正信	〃	〃
〃	佐々亮	〃	〃
教授(経済学部)	植村元覚	〃	〃
助教授(教育学部)	黒坂富治	助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
〃	頭川徹治	〃	〃
助教授(経済学部)	菅原修	〃	〃
〃	石瀬秀治	〃	〃
〃	池田直視	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
新潟大学教授農学部	川瀬金次郎	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	6. 8
和歌山大学教授経済学部	斉藤利三郎	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	6. 20
京都大学教授理学部	田中憲三	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	7. 12
東京大学助教授教養学部	木村陽二郎	〃 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
東北大学教授理学部	能登志雄	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	7. 15
東京大学教授物性研究所	近角聰信	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和34年12月31日までとする	〃
新潟大学教授農学部	萩屋薫	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	8. 1
名古屋大学助教授経済学部	細井卓	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	9. 1
助教授(経済学部)	新田隆信	助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 1
一橋大学教授商学部	山城章	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
教授(教育学部)	玉生正信	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
三重大学教授学芸学部	伊東法俊	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 11
助教授(教育学部)	林三雄	〃	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
教授 (経済学部)	城 宝 正 治	講師 (富山大学経営短期大学部) に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 18
〃	野 崎 富 作	〃	〃
〃	内 田 穰 吉	〃	〃
講師 (経済学部)	山 崎 佳 夫	〃	〃
教育学部附属中学校教諭	水 井 謹 作	〃	〃
講師 (教育学部)	有 沢 一 男	〃	〃
教授 (教育学部)	山 本 健 麿	〃	6. 13
〃	蜷 川 栄 作	〃	〃
教授 (工学部)	加 藤 正	〃	6. 15
助教授 (教育学部)	頭 川 徹 治	〃	〃
講師 (〃)	田 中 久 雄	〃	〃
非常勤講師 (文理学部)	原 富 慶 太 郎	〃	〃
	森 下 二 次 也	講師 (富山大学経営短期大学部) に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	10. 1
教授 (文理学部)	大 島 文 雄	講師 (富山大学経営短期大学部) に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
〃 (教育学部)	入 沢 寿 夫	〃	〃
助教授 (教育学部)	山 淵 利 文	〃	〃
教授 (経済学部)	三 国 一 義	〃	〃
助教授 (〃)	石 瀬 秀 治	〃	〃
医員 (〃)	内 田 重 遠	医員 (富山大学経営短期大学部) に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	5. 18
助教授 (経済学部)	田 中 文 信	補導協議会委員を免ずる	3. 31
〃	石 瀬 秀 治	補導協議会委員を命ずる 任期は昭和34年7月31日までとする	4. 1
助教授 (教育学部)	福 島 栄 七	特別教職課程委員会委員を命ずる 任期は昭和35年3月31日までとする	3. 31
教授 (教育学部)	佐 々 木 龍 作	認定講習委員会委員を命ずる 任期は昭和36年3月31日までとする	4. 1
〃	清 上 茂 夫	一般教育委員会委員を免ずる	〃
〃	蜷 川 栄 作	一般教育委員会委員を命ずる 任期は昭和34年7月31日までとする	〃
教授 (経済学部)	城 宝 正 治	特別教職課程委員会委員を免ずる	〃
助教授 (経済学部)	田 中 文 信	特別教職課程委員会委員を命ずる 任期は昭和35年3月1日までとする	〃
富山大学経営短期大学部教授	土 生 滋 穂	建築委員会委員を命ずる 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
助教授 (経済学部)	新 田 隆 信	認定講習委員会委員を命ずる 任期は昭和36年4月15日までとする	4. 16
講師 (経済学部)	山 崎 佳 夫	〃	〃
助教授 (経済学部)	石 瀬 秀 治	一般教育委員会委員を命ずる 任期は昭和36年4月15日までとする	〃
〃	池 田 直 視	〃	〃
助教授 (文理学部)	小 林 貞 作	富山大学原子力同位元素委員会委員を命ずる 任期は昭和36年5月10日までとする	5. 11
〃	梅 原 隆 章	〃	〃
教授 (教育学部)	山 本 健 麿	〃	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
助教授 (〃)	高 森 乙 松	〃	〃
教授 (経済学部)	三 国 一 義	〃	〃
助教授 (〃)	田 中 文 信	〃	〃
教授 (薬学部)	長 谷 純 一	〃	〃
〃	北 川 晴 雄	〃	〃
教授 (工学部)	浅 岡 忠 知	〃	〃
〃	森 棟 隆 弘	〃	〃
助教授 (文理学部)	小 松 寿 美 雄	昭和34年度富山大学科学教育研究室指導員を命ずる	5 16
教授 (〃)	林 良 二	〃	〃
〃	柴 田 万 年	〃	〃
〃	守 屋 獅 郎	〃	〃
教授 (教育学部)	沢 泉 重 夫	〃	〃
助教授 (教育学部)	藤 木 興 三	〃	〃
〃	山 口 政 則	〃	〃
教授 (教育学部)	佐々木龍作	〃	〃
〃	玉 生 正 信	〃	〃
助教授 (教育学部)	高 野 兼 吉	〃	〃
教授 (薬学部)	志 甫 伝 逸	認定講習委員会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	8. 1
助教授 (〃)	木 村 正 康	〃	〃
教授 (〃)	三 橋 監 物	認定講習委員会委員を免ずる	〃
助教授 (〃)	松 本 弘 一	〃	〃
教授 (文理学部)	大 島 文 雄	補導協議会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	〃
〃	渡 辺 義 一	〃	〃
教授 (教育学部)	佐々木龍作	〃	〃
〃	沢 泉 重 夫	〃	〃
教授 (経済学部)	三 国 一 義	〃	〃
助教授 (〃)	石 瀬 秀 治	〃	〃
教授 (薬学部)	北 川 晴 雄	〃	〃
助教授 (〃)	飯 田 武 夫	〃	〃
教授 (工学部)	浅 岡 忠 知	〃	〃
〃	森 棟 隆 弘	〃	〃
教授 (薬学部)	長 谷 純 一	特別教職課程委員会委員を免ずる	〃
助教授 (〃)	三ッ野間治	特別教職課程委員会委員を命ずる 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
教授 (〃)	長 谷 純 一	富山大学原子力同位元素委員会委員を免ずる	〃
助教授 (〃)	高 林 昇	富山大学原子力同位元素委員会委員を命ずる 任期は昭和36年5月10日までとする	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
教授(文理学部)	渡 辺 義 一	認定講習委員会委員を命ずる 任期は昭和35年4月30日までとする	〃
〃	植 木 忠 夫	一般教育委員会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	〃
〃	清 水 輝 次	〃	〃
〃	平 岡 伴 一	〃	〃
〃	渡 辺 義 一	〃	〃
教授(教育学部)	蜷 川 栄 作	〃	〃
〃	佐々木龍作	〃	〃
教授(薬学部)	長 谷 純 一	〃	〃
教授(文理学部)	浅 岡 忠 知	〃	〃
〃	大 島 文 雄	特別教職課程委員会委員を免ずる	9. 14
〃	島 崎 藤 一	特別教職課程委員会委員を命ずる 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
助教授(経済学部)	石 瀬 秀 治	学生相談所委員を免ずる	9. 1
教授(文理学部)	植 木 忠 夫	文化部会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	8. 1
助教授(〃)	岡 崎 初 雄	〃	〃
〃	小 森 典	〃	〃
〃	平 田 一 郎	〃	〃
教授(教育学部)	玉 生 正 信	〃	〃
助教授(〃)	高 野 兼 吉	〃	〃
〃	黒 坂 富 治	〃	〃
〃	松 田 順 吉	〃	〃
〃	小 沢 慎 一 郎	〃	〃
〃	上 原 定 清	〃	〃
〃	丸 山 豊 一	〃	〃
〃	手 塚 義 三 郎	〃	〃
〃	大 滝 直 平	〃	〃
講師(教育学部)	大 沢 欽 治	〃	〃
助教授(経済学部)	柴 田 裕	〃	〃
助教授(薬学部)	松 本 弘 一	〃	〃
助教授(工学部)	大 井 信 一	〃	〃
助教授(文理学部)	川 瀬 義 之	体育部会委員を命ずる 任期は昭和36年7月31日までとする	8. 1
教授(教育学部)	佐 々 亮	〃	〃
〃	林 勝 次	〃	〃
助教授(教育学部)	高 森 乙 松	〃	〃
〃	頭 川 徹 治	〃	〃
講師(教育学部)	有 沢 一 男	〃	〃

現高瀬重雄学部長の任期は8月31日をもつて終るので7月17日午後2時から3時15分の間にその後任候補者の選挙が行われたが、有効投票数44票中高瀬学部長が23票を得て再選された。次点は得票16票の大島文雄教授であつた。

(薬学部)

現横田嘉右衛門学部長は8月23日をもつて任期満了となるので7月23日午前11時から正午までの間に同学部で後任候補者の選挙が行われたが、横田学部長は投票総数15票中10票を得て当選した。これで横田教授は連続4期創立以来実に10年間の長きにわたつての就任となる。

図書館長及び学生部長の選考

(付属図書館長)

9月15日をもつて任期切れとなる平岡伴一現館長(文理学部教授)後任については8月19日開催の協議会において、かねて図書館商議会において推せんした植木忠夫(文)浅岡忠知(工)中沖太七郎(薬)の3候補について選考したがこれを無記名投票によつて決めることとし投票の結果過半数の獲得者なく決戦投票に及んで中沖教授が投票数13票中9票を得て館長候補者に当選した。

(学生部長)

学生部長の任期は9月14日をもつて満了するので8月19日協議会に引き続き開催の評議会において後任候補者を補導協議会の推せんした大島文雄(文)佐々木竜作(教)養田実(工)の3教授について選考無記名投票の結果大島文雄教授が決戦投票によつて、12票中7票を得て当選した。

本年度科学研究費交付金等の採択決定

本年度申請の掲記交付金等については6月前後して本省から次のとおり採択決定の通知があつた。

科学研究費交付金(各個研究)

本件については48名52件の申請をしたのであるが採択となつたものは次の8名8件である。金額は計65万円である。

(文理学部)

教授 福井憲二 交付金 9万円
研究課題 酸素環式化合物の合成ならびに構造研究
助教授 児島毅 交付金 5万円
研究課題 マイクロ波による分子構造の研究

(経済学部)

教授 内田蘆吉 交付金 12万円
研究課題 戦後日本資本主義の特殊構造の研究

(薬学部)

教授 中沖太七郎 交付金 5万円
研究課題 薬用資源の研究

(工学部)

助教授 大井信一 交付金 3万円
研究課題 有機試薬による比色分析法の研究
助教授 宮尾嘉寿 交付金 6万円
研究課題 丹板車輪の応力に関する研究
教授 室町繁雄 交付金 19万円
研究課題 マグネシウム合金に及ぼすカルシウムの影響
助教授 山田正夫 交付金 6万円
研究課題 Zr及びZr合金の耐食性に関する研究

輸入機械購入費補助金

申請2件中次の1件が採択されたものである。

申請者 文理学部助教授 児島毅
輸入機械 クライストンチューブ
QK306 2個 2K33 2個 QK463 2個
QK289 1個 QK290 1個 QK293 1個
輸入先 アメリカ Raythcou Mfg. Co.
価格 1,517,563円

これはマイクロ波分光装置のマイクロ波源として使用するものである。

本年度内地研究員

昭和34年度文部省内地研究員については4月16日付をもつて大当学術局長から次のとおり決定の通知があり、既に全員夫々出張研究についている。

工学部、助教授 池田正夫 6ヶ月 9.11~35.3.10
薬学部、助手 大浦彦吉 10ヶ月 5.1~35.2.28
経済学部、講師 中林一彦 6ヶ月 9.11~35.3.10
教育学部、助教授 岩田弘 6ヶ月 " "

なお研究場所、指導教官、研究テーマは次のとおり。

池田正夫 九州大学工学部 教授 伊藤尚
研究テーマ 還元法による金属マグネシウムの製造に関する研究

大浦彦吉 九州大学医学部 教授 山村雄一
研究テーマ 肺脳洞起物質の合成と空洞形式の阻止に関する研究

中林一彦 九州大学法学部 教授 高田源清
研究テーマ 株式会社支配の法的研究(特に取締役の部面)

岩田弘 東北大学理学部 教授 淡中忠郎
研究テーマ 位相解析、位相空間論、位相幾何学

文部省会計実地監査

昨年はちょうどこの頃会計検査院の会計検査が行われた

が、ことしは6月12日から3日間文部省の会計実地監査が行われた。監査員は塚田金治会計課経理班計算証明係長を主査として、田中亀夫、古谷喬次郎、札川澄男の各文部事務官であつて、次の日程で行われた。

- 6月12日 本部
- 13日 教育学部、経済学部
- 15日 文理学部、工学部、薬学部、図書館

文部省委嘱専門講座

ことしは教育学部と工学部において開かれることとなつた。この講座は社会教育法第48条により文部省の委嘱を受けて実施するものでその目的とするところは大学の開放あるいは街頭への進出を促し、大学設置地域の一般成人に専門的学術知識技術の習得の機会を提供し、社会教育の振興を図らうとするものである。

(教育学部)

教育学部では音楽について次のとおり開かれる。

1. 期間時数
10月2日～12月29日 総時数80時間
2. 場所 山王公民館
3. 科目内容と担当講師
 - (1) 芸術と生活 講上茂夫 8時間
 - (2) 富山県の民謡について 黒坂富治 24時間
 - (3) 歌う立場から日本語の解明と日本歌曲の傾向
小沢慎一郎 24時間
 - (4) 幼年の教養と音楽 大沢欣治 24時間
4. 受講者 40名の予定で青年、婦人、学生、教員、PTA会員その他一般成人を対象とする。

(工学部)

工学部においても次のとおり実施する。

1. 講座名 金属工学講座
2. 学習内容 鉄鋼材料、非鉄材料、鉄冶金、非鉄冶金、
鋳造、金属化学、物理等の理論と実際について
3. 期間時数 8月25日～10月7日 時数80時間
4. 受講者 40名ないし60名で高校、中学校教員、工場勤労者を対象とする。
5. 講師 工学部の関係教官だけでなく、文理教育の両学部教官、更に日本鋼管、日本曹達、日曹製鋼などの工場長や技術のベテランを講師とする。

科学教育研究室の開設

5月15日(金) 3時30分から本年度科学教育研究室の開設式が黒田講堂階上貴賓室で行われたが本年度の各学部の研究生、研究テーマ及び指導者ならびに開期は次のとおりである。

前期 5月16日～9月15日
後期 9月16日～12月15日 (8月中は休止)

以上は定時制のものであるが、全日制の八尾小学校の森井昌俊氏だけは5月16日から3ヶ月となつている。

学部	学科目	研 究 生		指 導 者	
		勤務校	職 氏 名	職 氏 名	氏 名
文理	化学	魚津高校	教諭 木田輝夫	助教授	小松寿美夫
	生物	黒部市 桜井高校	〃 石浦邦夫	教授	林 良二
	〃	富山高校	〃 高桑 昇	〃	柴田万年
教育	英語	高岡市 高陵中学校	〃 松沢朝香	〃	守屋獅郎
	物理	西砺波 福光小学校	〃 倉田友之	〃	沢泉重夫
	〃	婦負郡 八尾小学校	〃 森井昌俊	助教授	藤木興三
	生物	高岡市 牧野小学校	〃 三箇敬三	〃	山口政則
	近代史	婦負郡 野積中学校	〃 谷川岩男	教授	佐々木龍作
	美術 理論	砺波市柳瀬 庄西中学校	〃 置田光宏	教授	玉生正信
	教育 統計	婦負郡 古里小学校	〃 仲田 清	助教授	高野兼吉
薬学	化学	下新川郡 入善中学校	〃 島 浅松	教授	三橋監物

室長 学長 梅原真隆
主事 学生部長 武石 勉 (9月14日まで)
大島文雄 (9月15日以降)

秋季定時制認定講習

本年度秋季定時制認定講習については9月22日主催者側の県教育委員会教育課長等を加えて行われた認定講習委員会において次のとおり本学教官出講のもとに実施されることとなつた。

科 目	期 日	会 場	講 師
国 語 教科教育法	10月24,25日 31日 11月1日	富山市 星井町小学校	松田順吉
社 会	〃	高岡市 定塚町小学校	佐々木龍作
数 学	〃	富山市 星井町小学校	松為周従
理 科	11月14,15日 21,22日	高岡市 芳野中学校	沢泉重夫
図画工作	〃	〃	丸山豊一
音 楽	11月28,29日 12月5,6日	富山市 西田地方小学校	小沢慎一郎
保健体育	〃	高岡市 定塚小学校	田中久雄
栄 養 学	〃	富山市 西田地方小学校	松本弘一

大学後援会定期総会

本学後援会昭和33年度定期総会は7月8日10時から黒田講堂で開催された。

開会に先だつて9時から講堂階上の貴賓室で役員会が開

かれ梅原学長、山森副会長、中井精一県教委など18名出席のもとに総会へ提出の諸案件、会の運営、役員改選などについて事前協議を行ったが10時の振鈴とともに役員会を打ち切り一同会場に臨んだ。

小原理事開会を告ぐるとともに山森副会長議長となつて議事に入り、へき頭吉田理事から前年度の事業報告を行った。理事は単なる事務的報告でなく、事業の背景、基盤をなす大学の過ぎし一年の主なる出来事、催し、仕事、さては人事にまで及んで、自然事業報告の結びに至るという説き方で長広告を振つた。

このあと小原理事から会の眼目である33年度会計の決算報告があり、続いて34年度予算の審議に移つて両方とも承認可決された。

次いで役員改選に入り各学部からの委員により別室で鳩首選考され、その結果が発表された。この選考中に学長立つて会の過去1年の活動をたたえ、感謝し、来年度の活動に期待を寄せ、助力を乞ふ挨拶をして総会を終えた。

閉会后出席父兄を3班に分け構内校舎、設備を案内紹介した。

原富元教授に名教授の称号授与

名誉教授に関する規程は昨年3月14日から実施されたが元文理学部教授原富慶太郎氏(現非常勤講師)が初の適用者として称号を授与されることとなつた。

原富氏は大阪堂島生れのとし68才、学歴として高等小学校を終へただけで、あとは独学で今日の学殖を積み上げた方である。即ち専門学校入学者試験検定、次いで中、高等学校教員試験検定をパスし、教員生活をしながら、刻苦の研さんを深らめられたのである。かくて昭和2年、迎えられて創草期の富山高等学校教授となられたのが本大学と縁を結ばれた初めである。以後数学の権威として学内の信望を集められたばかりでなく、その業績は国の内外に高く評価されている。このことについては氏を名誉教授に推せんした文理学部教授会の次の推せん状に語らしめよう。

(推せんのことば)

原富氏の学問上の業績は多々あるが、別に挙げたのはその一部である。(別記略)

氏は日本における最も早い位相幾何学の研究者の一人であり、その結果は主としてドイツ語をもつて発表されているため、外国においても数学者としての氏の業績は、高く評価されているという。

今年日本数学会の大会が富山で開催されたが日本における位相数学の草分け的存在である原富氏が在住される場所として、富山が選ばれたという。

氏は日本数学研究史上にその名を残すべき人といわれている。これによつて、氏の学問上の功績は特に顕著であることが知られる。

下斗米教授等の学位取得

ことしは特に学位取得者が多い年である。前号で紹介した大浦助手(薬学部)以後の取得者は次のとおりである。

文理学部

助教授 川瀬義之

理学博士 昭和34年8月6日、大阪大学

学位論文 「クマリンの合成的研究」

論文主査 大阪大学理学部教授中川正澄

助手 中林良郎

理学博士 昭和34年3月31日 東京教育大学

学位論文 ≪Onguadratic forms≫ (二次形式について)

助教授 久保和美

理学博士 昭和34年9月17日、北海道大学

学位論文 ≪Studies on the Systematic Serology of Sea—Stars≫

論文主査 北大理学部教授 内田 享

教授 下斗米晟

文学博士 昭和34年9月21日、広島大学

学位論文 1. 中国古式における自然神の祭祀
2. 孔子の仁

其の他神仙思想と道家思想。中国におけるユートピア思想。西王母説話の変遷。八犬伝と水滸伝等

論文主査 広島大学教授 池田末利

これで本学の学位取得者は理学博士14、薬学博士8、工学博士3、文学博士1計26名となる。

吉田博助教授沖縄出張

教育学部吉田博助教授は、琉球政府文教局主催の沖縄における昭和34年度教員夏期講習会の教育心理の講師に文部省から指名を受け、7月28日羽田空港から渡沖、9月2日帰任した。これについては後に掲げた同助教授の「沖縄の印象」を読みたい。

竹内豊三郎教授の渡独

昨年11月25日渡米、ロードアイランド州プロビデンス市のブラウン大学に文部省在外研究員として留学中の文理学部、竹内豊三郎教授は、滞在期間を繰り上げ、独乙ミュンヘン大学のシュワブ教授のもとに赴き同一の研究を進めることとなり、9月末アメリカを立つてリスボンマドリッドなどからバリー経由で10月の初旬ミュンヘンに到着の予定である。なお滞独の期間は来年の6月に及ぶ筈である。

福井憲二教授の転出

文理学部福井憲二教授は7月31日付をもつて広島大学へ転出されることとなつて同日富山を去られた。本学へ来られてから丁度10年である。

教授は神戸の生れ、昭和13年の大阪帝大出であるが、高等学校は四高である。初代鳥山学長も四高校長であつたが時代では10年以上違ふからその間のつながりはあるまいが高校が隣の金沢ということが縁となつたものと思われ。教授は同大学を卒業するとともに母校に副手や、講師となつて研究を主として継続しつつ、学位をとつた24年の8月末本学の教授となり、今日の有機化学教室の創設的役割をつとめた方である。在職中主要研究テーマとして心血を注がれたものは「ベンゾフラン誘導体の合成的研究」であつて、その成果は30年から33年にわたつて雑誌「欧文日本化学」に連載された。

多忙な研究のうちからも32年評議員に選ばれて本年5月まで本学の運営に尽されている。教授は常に温顔人に接し謙譲よく人のいうことに耳を傾ける方であつたが、うちには強い信念をもつた人であつた。本学における教授の本格的活動も恐らくこれからというところであつたらうに、突然去られたことは如何にも残念なことである。

森武保 営繕係長 逝去

森営繕係長は8月31日夕刻中央病院で急逝された。22日発病して僅か10日目である。もつともこれは1年半前に患つた脱そうが何かのきっかけで再発したものである。さりとて余りにもあつけない死であつた。同氏は富山市の生れで市立富山工業学校を出て昭和15年に渡満、満鉄に入社、齊々哈爾に在勤したが、徴集されて富山の部隊に入隊、再び満州へ派遣され、転じて樺太へ移され、そこで終戦を迎へて23年帰還している。死因になつた病は既にこの寒冷の地にいた頃からその素地が作られたものかも知れぬ。帰還の翌年の7月に本学に入り、現在富山市の建築課長をつとめている村本氏退職のあと営繕係長になつたものである。性重厚温厚なうちにも何か動かさぬ芯をもつていた人であつた。技術家らしく寡黙な方であつたが興至れば訥々と語る、その語り振りに飄軽なところがあり親しみを感じさせたものである。享年僅かに38才、養家には可愛い、二女を遺している。

萩野啓之助氏の逝去

師範、高校、大学、にわたつて柔道教師として、あるいは事務官として本学に一生を終始した萩野啓之助氏は胃がんのため5月24日逝去された。享年65才であつた。

氏は富山千石町の生れで、京都武道専門学校を卒えるや柔道教師として2、3転々したが大正9年富山師範教諭となつたのが本学との結縁の始まりである。富山高等学校へ転じたのは同校創立期の大正14年である。この間県下柔道界の最高峰として学外においても活躍した。終戦となるや武道に対する批判、規制が厳しくなつたが、その状況下にあつて氏は随分去就に迷われた。何より開店休業に等しいその

本職に安居することは氏の性質として耐えなかつたものがある。昭和24年大学が発足するや思い切つて文理学部の事務長に転じたのもそのためであろう。後学生部の厚生課長となられたが、身を処するに謙虚、敏感な氏は事務やとしての不適を感じたものか27年3月思い出多い学校生活を去られた。従来年令的な限界を気にしながらもフリーな立場で柔道界のために活躍されていた。学校生活40数年その間、氏の教を受けたものは数限りもない。然かもその師弟関係は地を払つたといわれる昔の風を今に伝えるものであつた。それは一つに氏の寛大な性格、篤厚な人情味の然からしむるところであろう。とまれその温容、挙措は「苦勞人」の典型であつた。高校時代の教え子であつた吉田県知事が、がんの最高権位者田崎勇蔵博士の来富を機会に、親しく病床に診断のため招じたことはもつて篤き師弟関係の一端を語るものであろう。また27日西別院で執行された葬儀の盛大さはその人望を偲ぶこよないよすがである。

学生諸催し

第 5 回 大 学 祭

大学祭も回を重ねること5回となつたが、ことしは開学10周年にもあたるといので主催の学生諸君も格別の張り切りようで若き情熱を傾け、創意と工夫と趣向をこらして、5月23日から6月6日に至る数々の催しを次々と展開した。

5月23日(土)前夜祭は例により2時から県庁前の広場で型の如く、宣言挨拶のあとロードレースから始まり、当日随一のショーである仮装行列が行われ市中を練り沿道の観衆の爆笑と喝采を浴びた。ことしも平和擁護、安保条約反対、原水爆禁止、軍事基地反対などをテーマとしたものが多かつたが諷刺やウイットはいよいよ磨がかつたようである。夕刻から同じ広場でのフォークダンスや、ファイヤーストームが九時まで行われて大学祭のプロローグを終えた。続いて次のように行事が展開されて行つた。

5月25日(月)午後 高校生との教養教室及び懇談会が富山北部高校と氷見高校で行われた。

5月26日(火)6時30分～8時30分富山公会堂
演奏会 シュタフエンハーゲン氏ヴァイオリンリサイタル

5月27日(水)1時～5時、文理学部31番教室、弁論大会とパネル・デスクッション高瀬、武石の両教授他出席

5月28日(木)1時～5時黒田講堂
公開放送劇

演題 「蝶々」 演出 中平浩子
「河童」 青山淳一

5月29日(金)3時～4時黒田講堂

「べるくの会の映写会」 文理学部
「たくみの恋」 シラー作 べるくの会

の同人が演じたものを8ミリ映画におさめたもの。

5月29日(金) 4時～8時 黒田講堂

映写会

「真風の暗黒」 監督 今井 正

「怒りの孤島」 監督 久松静児

5月30日(土) 5時～6時 黒田講堂

空手術実演 空手部演出

5月30日(土) 6時～9時 黒田講堂

6月6日(土) 高岡工学部

ダンスパーティ

5月23日～31日

自動車旅行

自動車、油とも貸与寄贈によるもので山陰山陽地方13県の各大学との交歓、自動車工学の実習、交通道路の調査を目としたもの。

5月30日(土) 1時～4時 黒田講堂

講演会

「自己の意識少なきは日本インテリの欠陥」

学習院大学長 安倍能成

「“中,,の論理”

元京都学芸大学長 山内得立

5月30日(土) 4時半～9時半 高岡公会堂

5月31日(日) 4時半～9時半 電気ビル五階ホール

演劇発表会 富山大学演劇部第20回公演

「友情舞踏会」 作 広田雅之 演出 田中信彦

5月30日(土) 4時半～9時半 高岡公会堂

5月31日(日) 4時半～9時半 電気ビルホール

新劇研究第8回公演

「ガラスの動物園」 2幕6場

T. ウィリアムズ 作 演出 ぬまだとしお

5月31日(日) 9時～5時

大学祭球技大会

バレーボール 教育学部グラウンド

ピンポン 〃 卓球場

ソフトボール 〃 グラウンド

バスケットボール 〃 体育館

テニス 〃 グラウンド

6月1日(月) 1時～5時 黒田講堂貴賓室

講演会

「富山売薬業の歴史地理学的考察」

植村元覚

「放射能とその功罪」

小林貞作

「ソヴェートに旅して」

小沢慎一郎

6月4日～6日 9時～4時 富山商工奨励館

展示会

美術展 美術部

書道展 書道部

ユネスコ展 ユネスコクラブ

写真展 写真部

6月1日(月) レコード・コンサート 高岡

6月6日(土) 後6時～8時半 富山公会堂

音楽会 第一回定期演奏会

女声合唱、バリトン独唱、ピアノ独奏混声合唱、男声合唱、バイオリン二重奏、ソプラノ独唱、管弦楽

夏季学生キャンプ

学生部補導課では、かねてキャンプ用天幕20数張並びに寝袋70個、その他付属用品を設備して、学生の課外活動に備えているが、今夏は稀に見る晴天つづきから、その利用は100%なされた。

利用者の多くは、剣岳方面が圧倒的に多く、薬師岳、槍岳等がこれに続いている。また長野県高原地帯へのキャンプハイヤーも多く、能登方面一周なども目立っている。ちなみに7月初旬から8月15日までの利用者は50数パーティ、6百数十名に達している。

第11回中部日本学生卓球選手権大会

主題大会は、富山大学主管のもとに、8月11、12日の両日、富山市体育館において開催されたが、富山大学は善斗の末、男子シングルスに優勝した。

◆東海、北信越優勝校対抗戦

男子 中京大 4-2 富山大

女子 中京短 3-1 金沢大

◆東海、北信越選抜対抗戦

男子 東海 12-3 北信越

女子 東海 5-4 北信越

◆個人戦

男子ダブルス(準決勝)

梶・須藤(新潟大) 2-0 東・牧野(富大)

男子シングルス(決勝)

寄田(富大) 2-0 寛(中京大)

◆国体戦(決勝)

中京大 4-2 富大

北陸学生陸上競技対校選手権大会

第33回北陸学生陸上競技対校選手権大会は、5月24日、富山大学主管にて富山県富山陸上競技場にて開催、本学は総合にて次勝した。

北陸三大学学生総合体育大会

第11回北陸三大学総合体育大会は、7月4、5、6の3日間、金沢大学生管にて金沢市内各体育施設をもつて開催。本学からは学生280名が参加、競技の中心日である5日早朝の降雨で一部支障があつたが、天候の立直りと共に

果敢な試合が展開された。その結果本学は男子では卓球、バドミントン、バレーボール、柔道に、女子はバドミントン、ソフトボールに各々優勝した。

関西薬学生連盟大会

関西薬学生連盟大会は7月14日から16日まで、岐阜薬科大学の主管にて岐阜市にて開催、本学薬学部からは120数名が出席、野球、庭球、籠球、排球、音楽、弁論並に植物採集に参加した。

全国国立大学柔道大会

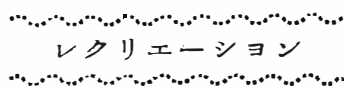
第1回全国国立大学柔道優勝大会は、7月6日東京都講道館にて開催、本学より石黒監督以下主要メンバーが出場、敢闘した。

北信越学生柔道大会

第8回北信越学生柔道大会は、6月14日、新潟市立小学校体育館にて開催、本学より林監督以下20数名が出場したが、善斗の結果（同スコア）で優勝を新潟大に譲った。

北陸学生庭球選手権大会

第2回北陸学生庭球選手権大会は、5月23、24日の両日金沢市兼六園コートにて開催、金大に惜敗した。



第9回文部省共済組合体育大会

北陸東海地区の第9回体育大会は7月30日31日の両日名古屋大学が当番支部となつて同大学の教育学部、経済学部を会場として野球、庭球、排球、卓球及びソフトボールの5種目について行われた。参加者は富大、金大、福大、岐大、愛学大、名工大、三重大、名工事、名大の8大学1事務所である。

昨年もそうであつたが、ことしはそれを上回る37度何分という近年にない暑さであつて、選手一同が名古屋駅へ下り立つたとき触れた熱気はたとへようのないものであつたという。

以下各種目における本大学の戦績をたどつて見よう。

野 球

富大は名工大と対戦9A対1で勝つたが翌日の準決勝戦で名大に3対4で惜敗した。

庭 球

A、Bのうち、Bゾーンで戦つたが、名工大、名大、愛学大に夫々1対4、0対5、0対5で敗れ去り第4位（最下位）に落ちた。

排 球

A、BのうちBゾーンで戦つて名大に1対2で、また金

大に0対2で敗れたが名工大に2対0で勝つて該ゾーンの3位に辛うじて止つた。

卓 球

富大は3つのゾーン中Aゾーンで愛学大に4対1で勝ち、金大に2対3で破れトーナメント戦に進み福大に3対2で勝つたが、名古屋大に2対3で破れて第3位となつた。

ソフトボール

対戦者三重大、福大の棄権で不戦勝を重ね、愛学大と優勝戦を争つて2対5Aで敗れた。

各種目の優勝者、次勝者をあげれば次のとおり。

野球	優	愛学大	次	名大
庭球	〃	金大	〃	名大
排球	〃	福大	〃	三重大
卓球	〃	名大	〃	名工大
ソフトボール	〃	愛学大	〃	富大

非現業国家公務員共済組合野球大会

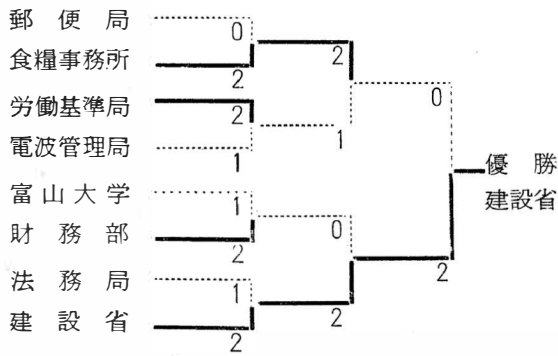
10月12、13の両日本学の五福グラウンドで富山地区のレクリエーション共同事業としての恒例野球大会が行われた。両日も晴れたり曇つたりまづまづの天候であつたが、本学チームが出場した12日は午後2時頃からにわか南西の強い風が吹き出し、張つた二つの天幕が吹き倒されるという騒ぎの一幕があつた。併し仕合は大した支障もなく続行された。参加チームは全部で8チームで、本学のみこのうち2チームを出場せしめたがBチームは裁判所に2対6で、またAチームは検察庁に0対4で破れた。併しわが両チームの相手方は何れも、同じグラウンドで鍛えた富山地区の強豪であつて、仕合の内容からいつて寧ろ善戦として讃えるべきである。そして練習さへ積んでチームワークが強化されれば有力な優勝候補であることの期待がもてるものであつた。

富山地区公務員レクリエーション共同事業

排球大会

昨年と同様本年も本学五福コートで6月25日10時から行われた。前日来の雨も漸々上つて競技は順調に進められた。出場チームは今年の11チームに比べて少なく8チームであつた。本学も1チームだけ参加した。毎年2チームを送つたのにこの1チームもやつと編成されたという有様であつた。その故か昨年は出場の2チームとも、ともかく2回戦まで進んだのに、ことしは1回戦で財務部に2対1で敗れ去つた。

戦績は次のとおり



コートは数日來の雨で整備のチャンスがなかつたがせつぱつまつた前日土砂降りのなかで本学出場の選手の有志4人がつぶぬれとなつて除草に薄暮まで努力したことを特記しておきたい。また当日世話官庁が砂一車を運んでコート

(ソフトボール大会)

8月4、5の両日にわたつて旧東部中学グラウンドで行われた。幸に両日も晴天に恵れたばかりでなく涼風時に吹きわたつて盛夏であることを忘れしめた。

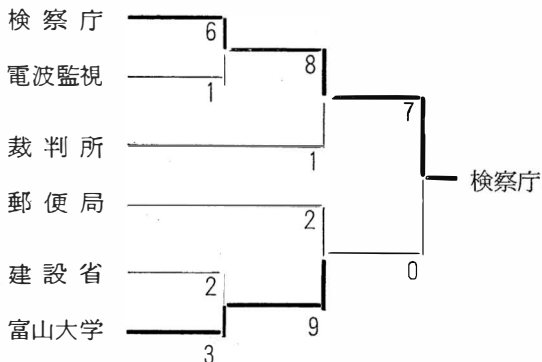
出場チームも昨年同様18チームという盛大さであつて、いよいよこの種目が参加しやすく、チーム編成がしやすい大衆競技として好適であることを確証せしめたようである。本学は建設、電波とともに2チームを出場せしめたが2チームとも1回戦に敗退してしまつた。チームの主力をなす、事務系の人々がますます若くなつて行くのに競技の戦績が後退の感あるが、この傾向はあらゆる角度から一考さるべきであろう。2チームの戦績次のとおり。

富山大学Aと労働基準局	12 対 22
「 Bと気象台	3 対 4

優勝は食糧事務所と昨年の優勝者法務局との間で争われたが、大接戦の末14対13で前者が優勝した。

(野球)

昨年は国体のため行われなかつた野球大会は10月5日6日の両日旧東部中学グラウンドで開催された。ことしは両日も天候に恵れて仕合は順調に進められた。本学チームはこのところ連続優勝の強豪検察庁チームと決勝に持ち込んだが敗れ次勝となつた。戦績次のとおり。



学部情報

文理學部

日本陸水学会第24回大会(富山)

日本陸水学会では第24回大会を県、市、北電、関電等の賛助のもとに10月2日から4日間にわたつて本学を本拠として開催された。本大会の参加者はいかにも理論及び応用の総合学会らしく、生物学、地学、物理学、化学等の専門分野にまたがり、大学教授から高、中、小の学校にいたる学者、教育者、また各種研究所員、試験場員、更に都市の水道関係吏員、農林水産関係公務員からさては図書館員までも交えた多彩を極めた顔ぶれである。そして参加の地域は北海道から九州に及ぶ広範なもので、その員数は臨時会員をもあわせて約120名に達している。

第1日(2日)は会場を電気ビルにとり、まづ評議会を開いて大会の運営を議したあと、午後6時から植木教授司会のもとに五階ホールで公開講演会を催した。

講師と演題は 「南極を探ぐる」

横浜市大助教授 福島博氏

「温泉資源の開発について」

元山形大学教授 安藤徹氏

であつた。このうち福島助教授は第三次南極探検隊の生物班長であつて講演はその貴重な体験を自ら写したスライドに託して行われたものである。

このあと岩波製作所で北陸電力提供の記録色彩映画「有峰ダム」が紹介された。まさにこの大会にふさわしく、また郷土総合開発事業のこよなき紹介であつた。

第2日(3日)は経済学部第一、第二講義室を会場とし、一般講演と特別講演とが午前午後にわたり行われたあと、遠来の会員のため市内見学が行われ、次いで電気ビルにおける懇親会が催された。翌4日は午前午後とも一般講演を続行したが2時頃にこれを終り、大会最後のスケジュールである立山の高山湖を中心としたエキスカージョンに移つり立山に向ひ、同夜は弥陀ヶ原ホテルに一泊した。なお会員の研究発表講演数は2日間にわたつて58題の多きに達した。水の環境に恵れたわが郷土富山においてこの大会が催されたことは意義深いことである。因に本大会会長は陸水学会会長の川村多実二京大名誉教授であり、委員長は本学の植木忠夫教授がつとめた。

日本数学会シンポジウム

日本数学会では富山の地を選んで下記の二つのシンポジウムを本学を会場として、わが文理學部数学教室及び武蔵

工業大学数学教室の後援のもとに開催された。このシンポジウムに北は北海道から南は九州にいたる各大学より70数名が数学者が参集したが地方大学で二つのシンポジウムを同時開催出来たことは異例に属するという。そしてこの会場が富山大学に選定されたのは位相幾何学の先達である原富慶太郎元教授の在富が機縁となつたという。然かも同氏の声価が日本位相数学界のトップクラスの学者を集めることともなつたという。

会 場 五福 経済学部教室

シンポジウムの日程 講演者

1. 位相幾何学分科会第9回シンポジウム

8月25日

講演者 島田信夫(名大理)
横田一郎(大阪市大理)
中村得之(東大教養)
高橋典夫(武蔵工大)

8月26日

講演者 笹尾靖也(東大理)
和田 達(東海大)
斉藤喜宥(大阪市大理)
静間良次(立命館大理)
青木清、本間栄一郎、金子哲夫
(新潟大理)

8月27日

樹下真一(阪大理)
細川藤次(神戸大理)
野口宏(早大理工)

2. 函数論分科会第2回シンポジウム

8月26日

講演者 小沢 満(東工大)
一松 信(東大理)
楠幸 男(京大理)

教育学部

昭和34年度教員養成学部教官研究集会

この集会は教育学部が当番世話役として10月27日(火)から30日まで4日間にわたつて同学部で行われる。これは茨城、宇都宮、群馬、埼玉、千葉、東京、東京学芸、東京芸術、東京教育、東京工業、お茶の水女子、横浜国立、新潟、金沢、福井、山梨、信州、富山の18の学芸大学、国立大学の学芸部および教育学部ならびにこれ等大学の付属学校の国語、数学の教官が集つて当該学科の教育法を中心として教科内容および教育実習に関する諸問題を研究、協議するものであるが、参加人員は182名の多きに達する見込みである。日程は次のとおりである。

- 第1日は 合同協議会、科目別分科会
- 第2日は 科目別分科会の続行、市内見物
- 第3日は 科目別、学校別分科会、終つて宇奈月温泉での懇親会に臨み一泊
- 第4日は 同温泉で分科会報告、合同協議を行つて、集会の幕を閉じ後黒部峡谷の探勝を行う。

本学では全国的な研究集会は今までも行われたことがあるが関東や北信越地区が結びついた集会は珍しく、然かも参加者180名に及ぶものは曾つてないことであろう。集中計画途上の未完成ではあるが、本学紹介の絶好のチャンスというべきであろう。

教育学部の昭和34年3月卒業修業者就職状況

(昭和34.8.5日現在)

区 分	学 科 課 程	第一中等教育科 (中学校課程)	第一初等教育科 (小学校課程)	第二初等教育科 (小学校課程)	計
		4 年 課 程	4 年 課 程	2 年 課 程	
	卒業修了者数	65	64	32	161
	進学者数		2	7	9
	家事従事者数		1		1
	就職希望者数	65	61	25	151
	就職者数	43	47	3	93
臨時就職者	公立学校講師	7		1	8
	同上産休代員	6	10	6	22
	計	13	10	7	30
	未就職者数	9	4	15	28
	合 計	22	14	22	58

備 考

産休代員雇用者のうち7月末で契約期間の満了となつたものが若干あるがその他のものは8月末より更に残任期間雇用される。

経済学部

昭和34年度十大学

経済学部長並に事務長会議

5月15日(金)16日(土)の両日に亘り本学部において、昭和34年度十大学経済学部長並に事務長会議を開催し北の小樽商科大学を初め福島大学、横浜国立大学、滋賀大学、和歌山大学、山口大学、香川大学、長崎大学、大分大学の各経済学部長並に事務長が参集し午前9時より同学部会議室にて下記要項につき協議された。

(学部長会議) 協議事項

1. 教官の定員増を本省に要望することについて
2. 学生定員増について
3. 経済研究所の法制化について
4. 傭外国人教師制度の復活並びに拡充要請について
5. 経済学部長会議と国立大学協会との関係の吟味について
6. 商品学の実験講座認定並びに会計及び統計の機械化について
7. 工業経営科の増設及び教官定員の増員について
8. 一般教育科目運営とその新設並に外国語(特に英語科)の充実について
9. 社会科学系教官の研究費増額について
10. 教官の旅費増額について

(事務長会議) 協議事項

1. 十大学事務長会の結成について
2. 教官の教科資格判定と学科目担当について
3. 課外活動に対する施設経費の援助について
4. 学生寮の管理運営について
5. 学生就職に関する経費について
6. 図書購入費について
7. 職員旅費の配分について

午後4時頃会議終了、引続き宇奈月温泉に至り懇親会を催はし、同地に宿泊した。

翌16日午前9時より黒部市吉田工業及び富山市広貴堂を夫々見学し午後5時、富山市長招待晩さん会が電気ビルホテルにおいて行われ、午後6時解散した。

なお経済学部長会議の協議事項のうち次の五項目を要望事項として、横浜国立大学を通じ文部省に取次方を依頼することになつた。

- (1) 工業経営科の増設及び教官定員の増員について
- (2) 学生定員増について

- (3) A、商品学の実験講座認定について
B、会計及び統計の機械化について
- (4) 外国人講師の定員について
- (5) 経済研究所の法制化について

日 誌

文 理 学 部 日 誌

- 4月15日 教授会
5月6日 叢授会
9日 東洋大学教授(元富山大学教授)吉川美夫氏来部
12日 レントゲン間接撮影
21日 全国文理学部長、事務長会議(於静岡大学)21、22両日、
28日 講演会「ソ連及びドイツを旅して」
講師 京都大学文学部長田村実造教授
6月11日 一般定期健康診断
早坂島根学部長並に徳光前金沢大学教授(元富山高等学校教授)来部
17日 教授会
22日 川村多実二京都市立美術大学長来部
6月24日 腸、パラチプス予防接種実施
7月2日 東園待従、義宮さま来臨下検分のため来部
13日 夏期休業
17日 教授会
次期学部長候補者選挙実施(高瀬現学部長再選さる)
23日 放射線障害防止に関する実地調査(総理府技官谷川浩氏外一名)
29日 義宮殿下御来部
31日 福井憲二教授広島大学へ扶任のため立山号にて離富
8月18日 文理学部同窓会総会
24日 日本数学会総会、(於富山市)
9月1日 前期第14週授業開始
2日 教授会
10月2日 より5日まで日本陸水学会総会、於富山大学

教 育 学 部 日 誌

- 4月24日~25日 日本教育大学協会北陸地区第1部会(新潟大学長岡分校)
5月7日~8日 教員養成大学カリキュラム協議会(東京学芸大学)
5月14日~15日 北陸地区教員養成学部事務長会議(信州大学教育学部)
5月15日~16日 全国国立大学附属学校連盟総会(箱根)

- 5月19日～20日 日本教育大学協会総会
(東京世田ヶ谷分校)
- 6月4日～5日 全国教員養成大学学部事務長会議
(福井大学学芸学部)
- 6月5日～6日 日本社会科教育学会日本教育大学協会
第二部会社会科部門全国大会
(世田ヶ谷分校)
- 6月14日 附属学校学習指導研究協議会
- 6月19日～20日 日本教育大学協会北陸地区第二部会家
政科研究協議会
日本教育大学協会北陸地区第二部会美
術研究協議会(新潟大学高田分校)
- 7月3日 特別教職課程委員会
- 7月9日～11日 学校保健講習会(国立科学博物館講堂)
- 7月14日～18日 教員養成大学体育研究集会
(長野県菅平)
- 7月26日 吉田博助教授沖縄出張のため出発
- 7月29日～30日 昭和34年度中学校音楽実験学校研究発
表会(国立音楽大学講堂)
- 8月5日 学校給食栄養管理講習会(福井市体育館)
- 8月7日～11日 日本教育大学協会全国大学数学教育学
会第8回総会並びに研究協議会(名古
屋大学)
- 9月3日 学期(上期)末試験
- 9月11日～16日 高等学校教育実習

学 生 サ ー ク ル

- 8月1日～6日 夏季学校開設 婦負郡長岡小学校にお
いて(教育談話会)
- 8月3日～9日 東砺波郡利賀村小学校及び氷見市藪田
小学校児童20名を招待して富山市呉羽
小学校において夏季学校を開設(ユネ
スクラブ)
- 8月5日～8日 児童文化研究会では東砺波郡利賀村方
面へ研究旅行
- 8月5日～9日 庄川中学校において音楽部の合宿訓練
引続いて10日～12日まで五ヶ山へ演奏
旅行

経 済 学 部 日 誌

- 4月16日 財務委員会、学部運営委員会、教務委員会、
職業補導委員会
- 4月20日 人事教授会、教務委員会
- 4月22日 人事教授会、教授会
小寺教授日本海号にて離富
- 4月30日 教授会、職業補導、小委員会、学部運営委員
会

- 5月7日 教授会
- 5月15日～16日 昭和34年度十大学経済学部長会議
- 5月18日 富山大学経営短期大学部前期授業開始
- 5月21日 教授会
- 5月27日 4年生、父兄との就職懇談会
富山大学経営短期大学部運営懇談会
- 6月1日 経済研究会主催の講演会開催
講師は東京大学経済学部長大河内一男氏
- 6月4日 学部運営委員会
- 6月11日 職業補導小委員会
- 6月18日 教授会、人事教授会
- 6月20日 北陸体育会開催
- 6月22日 短大学生と教職員の懇談会開催
- 7月1日 補導委員会
- 7月2日 教授会
- 7月14日 職業補導小委員会
- 7月15日 短大学生の定期健康診断実施
- 7月16日 学部補導委員会、教授会、短大教官会議
- 7月23日 人事教授会、職業補導小委員会
- 7月27日 人事教授会
- 8月6日 学部補導委員会
学部図書委員会
教授会
職業補導小委員会

薬 学 部 日 誌

- 4月13日 月 昭和34年度前期授業開始
教授会
- 5月2日 土 教授会
- 8日 金 教授会
- 9日 土 教官と学生との懇談会
- 17日 日 運動会(薬友会主催)
- 20日 水 教授会
- 25日 月 定期健康診断(レントゲン間接撮影)
- 29日 金 教授会
- 6月10日 水 教授会及び職業補導委員会
- 11日 木 定期健康診断(レントゲン直接撮影)
- 17日 水 職業補導委員会
- 19日 金 昭和34年度定期健康診断実施
- 7月1日 水 教授会
- 5日 日 日本薬学会北陸支部第8回例会(当学部)
- 8日 水 教授会
- 13日 月 夏期休業に入る
- 14日 火 関西薬学生連盟総合大会(16日迄岐阜に
おいて)
- 19日 日 職員レクリエーション(城端林道鉦泉)
- 23日 木 薬学部長候補者選手(横田教授当選)
教授会

- 27日 月 職業補導委員会
- 29日 水 職業補導委員会
- 8月17日 月 教授会、職業補導委員会、国立大学薬学部事務長会議（17日～18日於徳島大学）
- 21日 金 溶融塩委員会、大阪大学薬学部長堀井善一氏来学、千葉大学薬学部事務長池田馨氏来学
- 31日 月 教授会、職業補導委員会
- 9月7日 月 授業開始
- 14日 月 教授会
- 19日 土 前期授業終了
- 21日 月 昭和34年度3年次前期期末試験（29日まで）
- 23日 水 教授会、職業補導委員会
- 25日 金 学科課程立案委員会
- 30日 水 学科課程立案委員会

工 学 部 日 誌

- 5月6日 水 教授会
- 8日 金 鉄鋼協会、金属学会役員会
- 21日 木 間接撮影陽パラチブス予防接種
- 23日 土 24日 日 和倉温泉、中能登レクリエーション
- 28日 木 定期健康診断
- 6月8日 月 専任教授会
- 10日 水 専任教授会
- 18日 木 高岡消防署、防火施設点検
- 24日 水 専任教授会、後 教授会
- 26日 金 日本分析化学会中部支部第1回講習会
- 29日 日 化学工学懇談会
- 7月1日 水 教授会
- 8日 水 教授会、補導委員会
- 10日 金 文部省管理局、中尾龍彦計画課長来部
- 20日 日 教授会、職業補導委員会
- 29日 水 教授会
- 8月3日 月～7日 金 ボイラー技師試験準備講習会
- 20日 木 日本繊維機械学会北陸支部研究会
- 25日 火 補導委員会
- 31日 月 専任教授会
- 9月2日 火 教授会
- 14日 月 金属学会役員会
- 23日 水 教授会

本 部 庶 務 日 誌

- 4月18日 土 教育学部佐藤好孝講師離富
- 22日 水～23日 木 第7回文理学部併設国立大学長会議（東京）
- 26日 日 経営短大入学試験
- 5月1日 金 経営短大合格者発表

- 5月10日 日 経営短大入学式
大浜早稲田大学総長来学
- 15日 金 科学教育研究室入室式
福田社会教育局長来学
- 19日 火 育英会事務協議会（経済学部会議室）
育英会本部、近藤直人、市川隆二、横山三男氏等来学
- 21日 木 学生部長、補導、厚生両課長、中部地区学生厚生補導研究会出席（金沢）
- 22日 金 全国会計課長会議（東大伝研）
- 25日 月 施設課長会議（東京育英会）26日まで
萩野啓之助氏死去
- 27日 水 北陸東海地区庶務課長会議（静岡大学）
28日まで
- 29日 金 京都大学名誉教授山内得立博士来学
- 30日 土 安倍能成学習院大学長来学
- 6月4日 木 富山財務部給与監査西谷主計課長他2名
6日まで
- 10日 水 島根大学早坂学長来富
- 11日 木 北陸三大学学長会議（福井大学）
- 12日 金 文部省天城会計参事官来学、13日迄滞留
会計事務監査塚田金治他3事務官15日まで
- 16日 火 本省浦谷国際文化課長来学
- 19日 金 新旧評議員懇談会
- 26日 金 第1回評議会
- 7月1日～10日 日本学術会議、第5期選挙人名簿縦覧
- 3日 金 黒田国光堂副社長来学
文部省共済組合運営委員会（下呂）
- 7日 火 全国学生部長会議
- 8日 水 後援会総会
- 10日 金 第2回評議会
- 23日 木 科学技術局谷川放射線検査官来学
（工学、教育、文理、巡察）
- 24日 金 第3回評議会
- 26日 日 吉田助教授沖繩出張のため出発
- 27日 月 司書教諭講習会開講式（経済2番教室）
- 30日 木 共済組合中部地区体育大会（名大）31日まで
- 8月17日 月 国立学校全国庶務課長会議
- 19日 水 第4回評議会
- 22日 土 司書教諭講習会閉講式
- 31日 日 森宮繕係長死去、2日葬儀
- 9月2日 水 吉田博助教授帰学
- 8日 火 原子力同位元素委員会
附属幼稚地鎮祭
- 17日 木 文理学部を包設する大学の学長会議（文部省）18日まで

改 姓、住 所

職 業 改 姓

	旧	新
本 部	石黒 寿子	永森 寿子
〃	千田 富子	平林 富子
工 学	草崎 静香	藤田 静香
図書(本)	野村 貢	高尾 貢
〃(文)	太田 貞子	関場 貞子

職 員 住 所

住所異動

本部	永森寿子
〃	片山源二
〃	平林富子
文理	川瀬義之
〃	藤井昭二
経済	飯原慶雄
工学	藤田静香
図書(本)	高尾 貢
〃(〃)	関場貞子

新 任 者 住 所

文理	小笠原和夫
〃	早瀬智都子
〃	中村 良郎
〃	中山 充
〃	山本 道弘
〃	土地 春樹
〃	野上 泰男
教育	石黒 国雄
〃	氷見 嘉康
〃	高井 清
薬学	中島 益美
〃	西野 敦子
〃	酒井 立夫
工学	瀬川安一郎
〃	石田 文治
〃	能登 紀彦
〃	吉川 和男
〃	河崎 輝子
〃	門島 政紀
図書	石井 節子

特 別 寄 稿

(おことわり) 次の原稿は前号に掲載すべきところ、係の不注意のためにおくれて本号掲載となりましたこと、筆者(前図書館長)ならびに読者のお許しを願います。

ヘルン関係文庫の充実

文理学部 平岡 伴一

本大学のヘルン文庫は大正13年6月10日に設けられ、ラファデオ・ヘルン小泉八雲の旧蔵書2435冊をおさめているが、その他に開設以来集めたヘルン関係書が320冊ある。八雲の旧蔵書は学生には閲覧を許さないが、教官の方々には館内で閲覧を願っている。これに対し関係書の方は学生にも閲覧帯出を許していることは普通の図書と同様である。ヘルン文庫設立の趣旨からいえば、この関係書をなるべく多く集めておくことは大切であるが、長年にわたりこの収集を続けることは困難であり、現在までに集めた資料の量と質とは決して満足すべきものではない。最近本館はこの関係書を少しでも充実させることに着目し、次の三つの目標を立てた。

1. 現在収集されているヘルン関係書の分類を改善するこる。
2. 現在入手できる同関係文献を集めること
3. 新しい分類による同関係文献の新カードと便利な印刷目録とを造ること。

この第二の目標によつて文献を増加させるために専門図書費の中から二万円の予算を計上して資料の増加を計つたのであるが、それによつて最近一年間に増加したものは

新購入書62冊 新寄贈書58冊

で、この新購入書の中にはヘルンのRomance of the Milk-y Wayの初版(1905)、ヘルンの長男小泉一雄氏の最新著Re-echo(1957)のような重要なものがある。この新增加書によつてヘルン関係文献の数は約440冊となつた。

我国におけるヘルン関係文献の集まつているところは東大英文学研究室、天理図書館、松江のヘルン記念館とわが富山大学のヘルン文庫であろう。この中、天理図書館の収集はパーキンズ氏の八雲文庫を買入れたもので冊数約1000におよび、近くその目録が世に出ることと思う。東大研究室のはかつて雑誌「英語研究」に発表された「小泉八雲誌」によつてその一部分をうかがうことができるが、これは雑誌で続き物になつているので書誌として使うのに不便である。松江の記念館のは「小泉八雲と遺品」というパンフレットには約500冊があげてある。一昨年出た昭和女子大学の「近代文学研究叢書」第7巻には年代順にした、実にくわしいヘルン関係文献目録が出ていて非常に便利なものであるが、これによつてみると同女子大学にも相当のコレクションがあるものと思われる。

さて、これらのコレクションと比べると、富大のヘルン関係書は数からみても少ないものであつて、富大のヘルン文庫はやはりヘルンの旧蔵書によつて代表されるのである。しかし、その少ないヘルン関係書もこれを整理して新形式のカードと便利な印刷目録とを備えるならば、参考文献として現在のそれに数倍する偉力を発揮できると信じる。しか

もその印刷目録もただ文献名を並べたものではなくて、必要な解説をつけたものを造りたいと考えている。どうかこの希望が実現できるように大方の理解と後援とをお願いしたい。

沖 縄 の 印 象

教育学部 吉 田 博

今回図らずも夏季教員認定講習の講師団の一員として南国の島沖縄に出向する機会を得た。出発前の俄か勉強で多少の予備知識は詰込んでいつたつもりながら、実際に現地に足を印してみても啓蒙される事も多く、私にとつては誠に貴重な一ヶ月間であつた。

短期間の滞在ではあつたが、文教局の方々の周到なる計画と厚意により、南部戦跡を始め中北部の主要な場所は大体見学する事が出来た。とくに戦跡めぐりは極めて印象的で、かの“ひめゆりの塔”を始め“健児の塔”、“魂魂の塔”などを詣でるにつけ、15年前のあの苛烈な死斗の状景がホウフツとして眼前に浮ぶ気がして、目頭の熱くなるのを禁じ得なかつた。婦女子を含めた非戦闘員の犠牲実に15万といえ、その支払つた代価の如何に大であつたか容易に推測し得るであろう。爾来15星霜今日見渡す限り青々とした山野には、点在する碑や塔の外には当時の激戦の跡を偲ばせる何ものもないが、偶々“魂魂の塔”の傍の叢の中に放置されていた一塊の人骨だけが、過ぎし日の地獄絵の一端を暗示するかのようであつた。

“沖縄は暑いぞ”これは出発前も滞在中もよく聞かされた言葉であり、事実お義理にも涼しいとはいえないが、気温そのものは内地と比べて格段高いという事はない。一番暑い八月でも最高気温は32〜3度位で、これなら富山あたりでも時折経験する所で驚くにあたらず。結局沖縄の暑さは直射日光の強さと湿度の高さによるものらしい。今度の滞在中八月上旬は第6号台風エレンのもたらした降雨の為涼しく、また中旬以降は移つた下宿先が高台に位置して大変涼風が絶えず吹きつけ、全く本土の秋といった感じで全然暑い思いをしなすんだ。皮肉に言えば今夏は沖縄へ避暑に出掛けた事になる。台風といえば正直な所帰国までにせめて一度本格的なヤツに遭遇したいと念じていたが、不幸?にも二度とも本島をそれてしまい、肩すかしを喰つた恰好でがっかりした。

滞在中沖縄独特の行事としての“綱引き”と“盆踊り”(一名エイサー)の両方とも心ゆくまで鑑賞出来た。何れもその会場が偶々私の講習地と一致した関係上とくに仔細な観察が可能になつた。名称から判断する限り何の変哲もないが、その実態はわれわれの常識を遙かに超えたもので、前者は直径70糎ぐらゐの巨大な綱を用いての町ぐるみのお祭り行事であり、後者は全硫コンクールの名で、精選された少数チームによる一大デモンストレーションであつた。ここでこれ以上詳述の余白はないが、エイサーについ

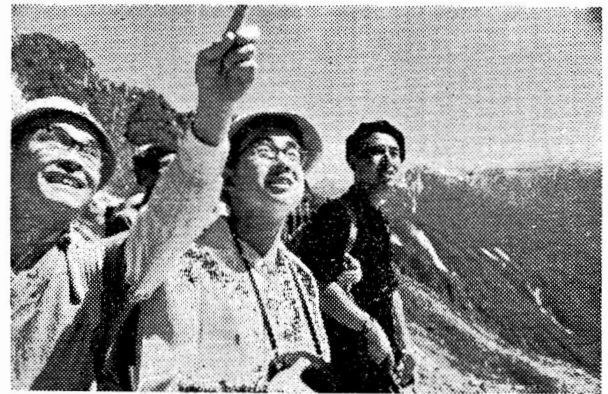
ては来るべき東京オリンピックを目標に、この優れた郷土芸能を全世界で紹介すべく、目下関係者が猛運動を続けているようである。

沖縄について語るべき事はまだ多いが、最後は本土復帰、生活水準の向上など沖縄の将来に関し現地人の本土への期待と要請とが如何に熾烈なるかを伝えてこの報告を終りたい。

義 宮 殿 下 に 随 伴 し て

立 山 の 自 然 を 探 る

文理学部 植 木 忠 夫



筆者、殿下あそこが雄山の頂上でございます
義宮、ああそう！立山一の越にて。

(右は小山内学友)

義宮さまには、さる7月27日夕方宇奈月温泉にご到着、翌28日には濃緑の黒部峡谷美を楽しまれ、29日は広貫堂ご見学のあと富山大学文理学部に御成り、生物学教室で林良二博士・久保和美助教授・堀令司博士らからヒトデヤメダカの種類発生に関する講義や実験をお受けになられた。そして同日午後から8月1日までの4日間立山の自然を探られるため、高山植物の咲き乱れる弥陀ヶ原高原へと向われ弥陀ヶ原ホテルにご3泊なされた。筆者はこの間ずつと登山や昆虫採集などに随伴申しあげたので、その思い出を簡単に記しておきたい。

一行は殿下のほかには学友小山内実氏(東大、理、動物学教室)、村井・森岡・今井の3侍従職、向後待医と4日間の随伴者木津富山県山岳連盟会長、県の杉本秘書室長と筆者などであつた。

午後1時35分電鉄富山駅発の特別列車内には県の近藤総務部長・佐藤助九郎氏・牧野平五郎氏・市川茂吉郎氏・高橋良太郎氏なども同席され、みなキチンと背広ネクタイ姿で威儀を正しておられたが、筆者はすでに文理学部長室において正式のご紹介がすまされていたので独り気楽な登山姿で乗車、一寸気まずい思いをしているところへ、佐藤氏の朗らかな再紹介によつて殿下の隣席に座らせられ、立山の動物や7湖沼の話などを申しあげているうち千寿ヶ原駅に

ご到着、同駅では下山途中の小学生らが義宮さまに偶然会えて大喜び々行つていらつしやい々とかわいい声で見送られたのに対しニコやかにごあいさつされておられた。

ケーブルからさらに15キロの立山道路をバスで弥陀ヶ原ホテルへ向われて、午後4時半お着きになつた。途中滝見台でしばし下車され、日本一の称名滝の絶景を眺められながらあそこにはヒダサンショウウオがいますか々とのおたずねがあつたので滝の上にも下にもハコネサンショウウオがいます々とお答えしているとき、あたかもウグイスがさえずつたので立山のウグイスは関西弁で鳴きます々々と説明申しあげ、関東弁との鳴き方の地方差を実演してみたところ大へんお笑になられた。

弥陀ヶ原ホテルのベランダでは、主としてカモシカやライチョウなどの習性についてご説明申しあげ、その保護や観光のありかたについての意見を述べたところ々それはよい考えだと思います、ぜひ実現できるよう努力して下さい々とお言葉があつた。

30日は午前7時にホテルをジープでご出発、天狗平の大谷雪渓前で下車されたところ、雪渓上にはイワヒバリの親子ずれが群れ、み空ひばりならぬ天然の美声で殿下をご歓迎申しあげたのにカメラのシャッターを盛んにお切りになつて答えられた。カメラ（ペンタックス）のご操作は始められたばかりらしく小山内氏が手をとつてコーチされていた。

室堂から一ノ越小屋でご休憩のさい、富山県石動町名物の薄氷々がでたので、これは菓子類の分類からいたしますとセンベイ科に属しますとユーモアを申しあげたら、たいへんお笑いになられた。三ノ越付近の陛下の立山のお歌々の歌碑前で小憩のおりには、そこに生えていたタカネツメクサとイワツメクサの相違についてご説明申しあげた。

雄山頂上では、この日絶好の快晴にめぐまれて映ゆる薬師・笠・野口五郎・御岳・穂高・槍・浅間・白馬その他の峰々の雄大な眺めに大満足のご様子、据えつけられたばかりのABCテレビ、トランジスタカメラにおはいりになられて、社務所でご昼食、後さらに立山の尾根をご縦走、大汝山が3015mで裏日本一の高山のよしを申しあげればわざわざ岩上に立たれカメラに入られた。それから真砂岳、別山を経て剣御前小屋から雷鳥沢、地獄谷へ下られ、ミクリガ池では日本一の高山湖としての諸条件についてご説明申しあげ、宿舎のホテルにお着きになつたのが午後6時5分。

31日はご朝食後、午前中はホテル付近から一ノ越方面へ、午後は美松坂を一気に天狗平へ、それから引きかえして旧道あたりをブラブラと捕虫網を片手にのびのびと蝶を主とする昆虫のご採集を遊ばされた。

集められたものは(△印山地性、○印高山性、他は平地性) オオチャバネセセリ、モンキチョウ、○ミヤマモンキ

チョウ、○アルプスモンキチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ミドリシジミ、ベニシジミ、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、△オオウラギンスジヒョウモン、○クジャクチョウ、ルリタテハ、△ヒメキマダラヒカゲ、キマダラヒカゲの15種の蝶と、甲虫の、○トホシハナカミキリ1種であつた。

この日、夜のご会食に招かれて、木津氏と筆者は殿下の左右に同じ長椅子内にこしかけ、宮さまのお酌で大いにビールをすすめられ、食膳の立山産地衣類のイワタケの酢のもの話から、ゲテモノやイカモノの話になり、宮さまもカミキリムシの幼虫テツポウムシやドカリイソギンチャク、フジツボ、カメノテそのほかもろもろのものをめしあがられた興味ふかい経験談を承り、独唱や詩吟などさまざまの余興も出て、宮さまのマライ語「ジャンガンルーパー、サマーサヤ」が飛びでるなどいとも和やかに楽しく時の過ぐるのも忘れた次第。

8月1日、連日の好天気めぐまれた義宮さまには黒々と陽やけされて、初めてのご登山に体力に対する充分のご自信を得られ、無事お元気に富山市にお帰りなられた。さらに呉羽山お野立所にお上りになり、中田町の共栄製菓・高岡市の北陸銅器などをご視察の上石川県和倉へ向われた。

塩谷孝治郎氏ほかの退職

さきにも高れいのために退職された方々が若干あつたが、4月30日時をもつて同じ理由で6名の方々が辞められた。ここにお名前と勤続年数を掲げて、多年の労を感謝するとともに、今後ともいよいよご健勝で自適されることをお祈りするものである。

若杉竹次郎	29年6月
塩谷孝治郎	9年9月
山崎 敏治	11年8月
日南日栄蔵	12年8月
広木 順則	13年8月
田近 長蔵	18年2月